

【米原市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

社会の在り方が変化する速度が増し、複雑で予測困難な時代となってきた中、子どもたちが自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えていく必要がある。また、自ら豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるための資質・能力をバランスよく育成していくことが求められている。

米原市では、米原市教育大綱において、「ともに学び、ともに育つ、学びあいのまち まいばら ～自分もひと大切にし、地域を誇る人づくり～」を教育施策の基本理念として掲げながら、学習指導要領にある「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という新しい時代に求められる資質・能力を育成するために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた令和の日本型教育の構築を目指す。これからの学校教育を支える基盤的ツールの1つとして、児童生徒1人1台端末環境を引き続き維持することで、児童生徒一人一人の資質・能力を最大限に引き出す教育を実現する。

2 GIGA 第1期の総括

令和2年度に「GIGA スクール構想」の実現に向けて、市内小中学校の児童生徒に1人1台の学習用端末を導入し、校内の通信ネットワークの高速化や無線化などの大規模な整備を実施した。また、大型掲示装置として電子黒板やデジタル教科書などの ICT 設備やソフトウェアの充実を図るとともに、ICT 支援員による授業のサポートを行ってきた。

このGIGA 第1期においては、1人1台端末などの ICT 機器の活用が急速に進んだ一方で、現在の通信帯域では ICT 機器の活用に限界があることが分かり、今後回線プランやネットワーク機器類の見直しが必要となった。また、教職員の ICT 活用指導力には個人差があるため、ICT 支援員による研修の充実などの支援の拡充が必要である。

3 1人1台端末の利活用方策

「個別最適な学び」の実現のため、教員がより効果的な指導を行うことができるよう、児童生徒の学習状況を分析できるツールや、それら分析結果を活用して一人一人の学習状況に応じた課題を提示できる AI 型学習コンテンツ等の採用を検討する。

「協働的な学び」の実現には、授業支援ソフト等の有効活用を図り、子ども同士ま

たは多様な他者と協働的に学ぶ学習を推進する。

1人1台端末を日常的に利活用するため、児童生徒がいつでもどこでも利用しやすい環境を検討する。また、各種サービスにアクセスするまでの動線の見直しや活用事例の研究などに取り組み、児童生徒が自ら調べやすい、考えやすい工夫を図る。更に、OS メーカーから標準的に提供される機能を最大限活用し、児童生徒同士や教職員との円滑な情報のやりとりや、児童生徒1人1人の特性や理解度・進度に合わせた支援に取り組むことで、普段の学校生活の中で1人1台端末が基盤的ツールの1つとして利活用される環境整備をより一層推進する。

4 学びの保障

不登校児童生徒やその他支援を必要とする児童生徒（例、外国人児童生徒、障がいのある児童生徒、病気療養児など）、相談・支援を希望する児童生徒などに対して、1人1台端末などのICT機器を活用することで、誰一人取り残されない学びの保障を実現する。